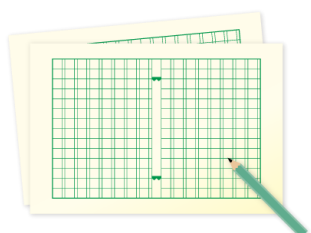


# はじめての読書感想文

## ー書き方講座ー



『お手紙』アーノルド・ローベル著 編

神栖市立図書館

## 感想文とは

本を読む前の自分、本を読んだ後の自分、読書を通して変化したことを作文にしたものです。

一、感想文が完成するまで

(1)本を選び

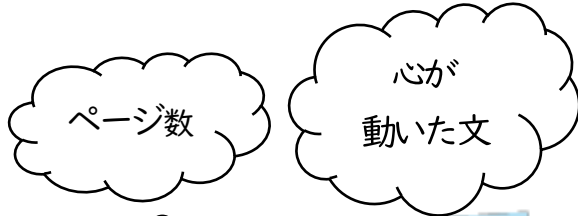
① 登場人物が、自分と共通点のあるようなキャラクター

② テーマ、ジャンルから(冒険、ファンタジー、動物家族、学校、友情など)

※ 課題図書じゃなくてもOK!

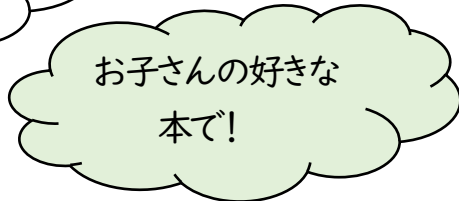
※ 物語だけでなく自然・知識絵本などでもいい!

(2)読む ↓ 心が動いたところに付せん(メモ)



P. 60  
『かえるくんはまどからのぞきました。かたつむりは まだやってきません。』

かたつむりさんは、どうしちゃったんだろう。手紙がとどくかしんぱいだなあ。早くればいいのに。



※ 図書館の本には付せんは貼れません。メモをばさんでおきましょう。

(3)親子で対話

「どうしてそうおもったの」「なぜ、そこが気になるの」

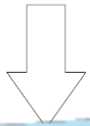
「もし、じぶんだったらどうする」「どうして付せん(メモ)に〇〇ってかいたの」

「もし、まほうでおはなしをかえられるとしたら、どうしたい」

「どうしよう人物にへんしんするなら、だれになりたい」

① どうして心がうごいたのか?

② お子さんが話したこと  
(答え)



P. 60

① どうして、手紙がとどくかしんぱいだったの?

② だって、かえるくんがまっているのに、かたつむりさんがなかなかこないからさ。

(4)文を書く

- ①心が動いた文
- ②お子さんの話したこと(質問の答え)

をセットに文を作っていく。

〈例〉

『お手紙』 『ふたりはともだち』 アーノルド・ローベルより

① どうして、手紙がとどくかしんぱいだったの？

② だって、かえるくんがまっているのに、かたつむりがなかなかこないから。

① 質問と答えをセットにし、文を作っていく。

ぼくは、お手紙がとどくかすごくしんぱいだった。かたつむりさんが、なかなかこないから  
はやくくればいいのっておもいながらいた。

② 言葉を足す

ぼくは、お手紙がとどくかすごくしんぱいだった。だって、かえるくんが ずっとまっている  
のに、かたつむりさんが、なかなかこないんだもの…。ぼくははやくくればいいのって お  
もいながらいたんだ。

③ 付せん(メモ)に残された言葉から、文を肉付けする。

言葉かけ

「かたつむりはどんな生きもの?」「歩くのはやい?」

「かえるくんの きもちはどうかなあ。」

かえるくんは、はやく手紙がくるといいなあって、しんぱいしながらまっていたとおもつ。  
だって、「かたつむりさんが、なかなかこないんだもの…。ぼくもイライラしちゃったよ。でも  
かたつむりさんは、あるくのがゆっくりな生きものだから、いっしょうけんめいがんばっても  
すぐにとどけることができないのは、しかたがないのかな。

ポイント 1

擬態語を使おう!

「すべすべ」「わくわく」「ぴかぴか」

擬音語を使おう!

「ふわふわ」「ほかほか」「あつあつ」

ポイント 2

「うれしい」 ↓ 「とびあがるほどうれし

「かなしい」 ↓ 「ねむれないくらいかなしい」



(5) 下書きする

書き出しが大事!

① 結論(お子さんが強く感じたこと)からふくらませる。

② 「 」 会話文から書き始める。

③ お手紙ふうを書いていく。

(6) 題名を考える

△「○○○○」を読んで

◎付せん(メモ)からキーワードを探そう

例 よかったね、がまくん。

いつまでも、なかよくね

「ともだち」っていいね。 など

(7) 清書する

**すぐに下書きしない!**

まずは、前日書いた文を読み返し、音読してみよう。



気づきが生まれる

〈文の組み立て〉

おわり	中	はじめ
<p>本をきっかけに考えたこと、学んだこと。 それを自分の生活にどう生かすか、これからの目標などを書いてまとめる。</p> <p>一、二年生なので、主人公に話しかけるように書くといいですね。</p> <p>大事</p>	<p>柱をささげよう</p> <p>主人公のこころの動き 新しい発見、気づき</p> <p>つなぎごころばを上手に使おう!</p>	<p>①本の紹介から書く この本は、二匹のかえるくんのお話</p> <p>②本を選んだ理由から書く タイトルに「なかよし」ってあるけど、どれくらいなかよしかりたかった。</p> <p>③主人公に呼びかけるように(お手紙) 「がまくん、そんなになさしないで。」</p> <p>④結論から書く 二人は最高の友だちだと思って思った。ぼくまでしあわせな気分になった。</p> <p>⑤心にのこった文から書く 「二人ともとてもしあわせな気もちでそこにすわっていた。」</p>

中の部分には、本から読み取った中で共感したことを書くとよい。また、主人公の行動や考え方に似た体験談を書く。つまり自分自身のことを必ず入れる。全体の約5割! あらすじにはならないように!

☆しつもんどこたえをセットにして 文をつくってみよう。



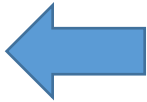
①	②

①しつもんどこたえをセットにして文をつくる。

②ことばをたす。



③やらに文をにくづけする。



オノマトペ(ぎたいご・ぎおんごなど)



二、作文用紙の使い方

- 一行目 題名
- 三マス下げる。
- 二行目 学校名・学年・氏名

書きはじめは、  
1マス下げる。

かえるくんへ  
〇〇小学校 二年 神栖 ココ  
かえるくんは、なんて友だちおもいでやさしいんだろうっておもったよ。  
四日たってかたつむりさんが、がまくんのいえについたとき、ぼくは、「かたつむりさん、おつかれませ。たいへんだったね。」  
って言ってあげたんだ。  
よかったね。

会話文「 」の2行目は、「 」のとなりには書かない。1マス下げる。

句読点の打ち方  
一番下のマスが文末になってしまったときは、1マスに文字と句読点を入れる。

題名 本のタイトルには『 』をつける。  
例『お手紙』を読んで

文字数は八百字。題名と氏名は文字数には入らないので、三枚目の二行目まで書くときよい。

はじめての読書感想文―書き方講座―

『お手紙』 アーノルド・ローベル 著 編

二〇二一年七月二十四日 初版発行

二〇二二年四月一日 第二版発行

二〇二三年九月一日 第三版発行

二〇二六年四月一日 第四版発行

著者 高田悦子

発行 神栖市立図書館

〒三二四―〇一四四

茨城県神栖市大野原四丁目八一―

TEL 〇二九九―九二―三七四六